

第64回社会教育研究全国集会（北海道集会 in 恵庭）ご案内

社会教育ルネッサンス：今こそ社会教育の本質を問う —地域に根を張り、学びと協働で築く新時代—

第64回社会教育研究全国集会は、1990年（北海道・知床）、2008年（北海道・札幌）以来17年ぶりに北海道で開催します。この集会は1961年にはじまり、全国各地を会場に住民、職員、研究者、学生らが集い、社会教育実践を交流する場として開催してきました。

北海道は人口減少や気候変動などの変化に最も大きな影響を受けている地域のひとつといえるでしょう。そうした中、道内の地域づくり実践においては、働くこと、学ぶこと、人間らしく生きることに関わる問い、つまり人間の根への問いが発せられています。従来の開発志向の「発展」の前提が崩れつつある地域であるが故に、人が生きる上での根源や前提を問い直し、再設定する挑戦が始まっています。これまでの社会の歩みの延長とは異なるもう一つの未来を志向する実践に学び、社会教育の本質を問いながら、希望を育む社会教育実践の方向性を探求したいと思います。

北海道集会の実行委員として集った団体・個人は、当事者・住民が主体になった問題解決を志向するならば共に取り組む集団が必須であることを自らの実践経験の中に見出しています。また、それぞれの実践の中で、自らを守ることに精一杯だった人たちが、他者の喜び・幸せが自らの喜び・幸せになるという変化を目の当たりにし、人を好きになれる実践の魅力を語っています。これはこの集会に関心を寄せる多くの方々に共通した感覚といえるのではないのでしょうか。

誰もが生きやすい社会へと作り変えるという根本的な課題に迫り、教育や福祉、環境等々の領域を超え、希望を生み出す学びあい、そしてその学びあいを育む仕組みとは何か、社会教育の本質を問う集会を目指しています。希望を語れる社会を次世代に引き継ぐために、いまこそ社会教育について学びあい、語り合いましょう。全国各地から、そして道内各地から多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

期 日 2025年8月23日（土）・24日（日）

※一部のプログラムは開催日が異なります。

会 場 北海道文教大学（北海道恵庭市黄金中央5丁目196-1）

第64回集会
ホームページ



主 催 第64回社会教育研究全国集会（北海道集会 in 恵庭）実行委員会
社会教育推進全国協議会

後 援 北海道文教大学*、北海道*、北海道教育委員会*、恵庭市教育委員会*、札幌市教育委員会*、北海道社会教育主事会*、北海道社会教育士会*など（*予定）

参加費 集会参加費 3,000円（学生・院生 1,000円、高校生以下無料）

* 対面参加・オンライン参加共通です（集会資料集兼報告書代を含む）。

* 全体交流会（飲食付き）は事前申込み制です。当日申込はできません。

別途会費（一般4,500円、学生・院生3,000円）が必要です。

* 8月24日（日）昼食弁当1,000円（お茶付き）要事前申込み。

開催方式 対面方式を基本に、一部のプログラムでオンライン方式を併用します。

* 一部の分科会は、オンラインのみでの開催となります。オンライン参加が可能なプログラムは注記がありますので、よくご確認のうえお申込みください。

プログラム

(1) 開会集会(8月23日(土) 13時30分～17時30分)

北海道文教大学・鶴岡記念講堂2階大ホール **対面+オンライン併用で開催**

集会テーマ、基調提案を読み解き、共有するためのキックオフとなる開会集会を目指します。
社会教育の本質に迫るための学びあい、語り合いがここからはじまります。

▽開会セレモニー、来賓あいさつ

▽トークセッション1「社会教育の本質に迫ってみたい」(仮) 登壇者：副実行委員長の4名

石本依子さん(労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団)

草野竹史さん(NPO法人 ezorock/NPO法人北海道NPOサポートセンター)

宮 利徳さん(恵庭市子ども会育成連合会)

吉川淳也さん(特定非営利活動法人あい)

▽グループトーク 参加者が社会教育について語り合う時間

▽トークセッション2「地域に根を張り、次世代と共に希望を育む 北海道・浦幌の実践からの発信」

▽まとめ～基調提案をみんなのものに

(2) 全体交流会(8月23日(土) 18時～20時) 学生食堂 ※飲食あり・会費制

全国各地から参加された皆様の情報交換や交流の場です。心づくしの料理を食べながら皆で語り合い、楽しいひとときを過ごしましょう！

(3) 分科会(8月24日(日)を中心に開催) 北海道文教大学内

一部分科会は日時・会場が異なります。また、オンラインを併用する分科会や、オンラインのみで開催する分科会もあります。詳細は「分科会」の項をご参照ください。

(4) 全国集会バトンタッチセレモニー **対面開催**

8月24日(日) 16時45分～17時15分 鶴岡記念講堂911教室(予定)

(5) 「日韓交流」特別分科会 **対面+オンライン併用で開催** ※札幌市内での開催となります

8月25日(月) 9時30分～14時30分 かでる2・7(北海道立道民活動センター)

テーマ：「地域(マウル)教育共同体を支える社会教育・平生教育」

韓国からの報告／日本からの報告／研究者によるコメント、全体討論

報告内容などの詳細は別項「特別分科会 日韓交流」をご覧ください。

※「日韓交流」懇親会 8月24日(日) 18時30分～(会費制、恵庭市内を予定)

事前申し込み必要。会費 5,500 円程度(当日会場で支払い)。定員 50 名、定員になり次第締めきります。申込者には詳細を改めてご案内します。

閉会集会

9月21日(日) 14時～17時(予定) Zoomによるオンライン方式で開催

今集会の成果を共有し、次回(第65回)全国集会につながる内容の学習会を開催します。
詳しい内容や参加方法などは、集会を申し込まれた方に追ってご案内します。

※閉会集会のみ参加希望の方の申込方法は、事務局までお問い合わせください。

参加申込について

- ・社全協ホームページ内の集会参加申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。

申込フォームアドレス <https://forms.gle/gkavTXR4nrGu143F7>

(右のQRコードを読み取ると申込フォームに直接つながります)

- ・次に参加費を下記の郵便振替口座に別途お振込みください。

ゆうちょ銀行のATM、ゆうちょダイレクト、郵便振替用紙等をお願いします。

記号番号 00140-5-148793

口座名義 社会教育研究全国集会実行委員会

※ ゆうちょ銀行以外の金融機関から送金する場合

ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0148793

オンライン参加の方には、参加費の振込確認後、メールアドレス宛に集会参加用のZoomミーティングIDとパスコードをお送りします（8月20日前後を予定）。

- ・参加申込フォームでの申込ができない方は、集会の問い合わせ先まで、Eメール・FAX・電話にてご連絡ください。

- ・8月23日の全体交流会および8月24日の昼食弁当は、必ず事前にお申込みのうえ所定の代金をお支払いください。集会当日の申込みはできません。

- ・申込〆切日 8月13日（水）メール必着。参加費等も同日振込締切です。

※参加に際して特別な配慮が必要となる場合には、お気軽に事務局までご相談ください。



分科会

8月24日（日）を中心に開催（9時30分～16時30分を基本）

北海道文教大学 鶴岡記念講堂・本館・8号館

分科会により開催方式が異なります。また、一部の分科会は日時・会場が異なります。時間帯が重ならない限り、複数の分科会への参加も可能です。都合により開催時間等が変更となる場合がありますので、最新の情報は社全協ホームページ等でご確認ください。詳細は事務局までお問い合わせください。

No.	分科会名と主な討議の内容
1	子どもの権利を考える～意見表明と参画を中心に～ 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面開催 昨年は、日本が子どもの権利条約を批准してから30年の節目であった。本年も引き続き、子どもの権利、特に「意見表明」と「参画」の二つに焦点を当てる。各自治体で「子ども計画」の策定が進められる中で、この二つはますます重要なものとなっている。これらを形式的ではなく、どのように日常の実践の中で保障し、実質化していくかについて、地元・北海道の事例を中心に検討したい。また、複雑化及び多様化する、子どもを取り巻く諸課題にどう向き合うかを考える機会としたい。 世話人：今井雄生、川野麻衣子、河野遊、鈴木大祐、高田正哉、中川薫、深作拓郎
2	子育て&親育ち分科会 ～これからの子育て？親育ち？ パパ♡ママおしゃべり会～ 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面開催 今回は子育て世代のおしゃべり会と題し、現役のパパ&ママの声を、これからの親育ちの在り方へつなげたいと思います。日々変動する社会の中、多様な価値観を受け止めながら、子どもたちが健やかに成長する為には、社会教育と家庭教育の視点が重要です。しかし家庭教育の必要性が希薄になっている現状です。事例報告は父親サークルを立ち上げた現役パパの子育てのリアルと、開催地である恵庭の実践から母親と子育てを支える地域住民、社会教育主事の協働による親育ちの2本を予定しています。ぜひ皆さんと語り合いたいです！ 世話人：岸雅子、榊ひとみ、沢村紀子、杉本徳子、鈴木玲子、沼野伸子、平間恵美、丸山修、宮嶋晴子、吉岡亜希子

3	若者の自立と社会参画 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 日本社会における若者の「生きづらさ」には一向に改善の兆しが見られません。それでも地域のひきこもりなど困難を抱えた若者を支援する取り組みが広がり、地域づくりの中心的な担い手として若者の参画を推進する事例もあります。地域で若者を育てる機能を果たす青年団（的活動）もなくなったわけではありません。また、高校の「探究」をはじめ地域の大人と生徒一人ひとりがつながり、社会・経済活動を創造的に展開しながら自立への営みにつなげている事例が急増しています。今回は、八雲町「若人のつどい」をはじめ、北海道内の地域の若者をささえ、担い手に成長する実践報告から、これからの若者支援・青年教育について語り合ひましょう。 世話人：井上大樹、大坂祐二、大村恵、小林平造、阪光平、高崎宗悦、瀧本美子、永澤義弘、中野啓一、深谷じゅん、山中ちあき
4	地域福祉分科会 誰もが安心して地域で豊かに暮らせる地域福祉と社会教育を『つなぐ』 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分（予定） 対面+オンライン併用で開催 少子高齢化や2025年に団塊の世代のすべてが75歳以上になること、相次ぐ災害などにより地域をとりまく状況が変化しており、地域とのつながりの希薄化や社会的孤立など、様々な課題が生じている中で「地域福祉と社会教育の連携」が地域での暮らしをいかに豊かにできるかをテーマとして活動を継続している。豊かな蓄積のある北海道の活動から学ぶ今年は、災害をはじめとした様々な困難を乗り越え、一人ひとりが住み慣れた地域で安心して、豊かに暮らせるために、①地域や人がつながり、よりいっしょに助け合う、②多様な人たちが暮らす地域の中で悩みや課題を分かち合い、共に暮らしていく、③地域に根ざした支援活動、住民が主体となった活動やよりあいの場づくりに対して、今、地域福祉と社会教育を「つないでいく」ことをキーワードに学び合いたい。 世話人：穴澤義晴、飯塚哲子、工藤千佳良、霜島義和、吉川淳也
5	障がいをもつ人の生涯にわたる学習保障 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 本分科会では、午前に、みらいづくり研究所の「みらいづくり大学」（札幌市）をはじめ、北海道内で展開されている障がいをもつ人々の生涯にわたる学びの活動について報告を受けます。午後の討議では、それらの報告をもとに、学習文化活動を支援しながらともに学び、誰もが住みやすい地域をつくるには何が求められているのかについて、参加者各々の実践紹介も含めて皆さんで交流しながら、考えていきたいと思います。 世話人：井口啓太郎・伊藤光栄・岩田武・加藤沙耶香・小林繁・高橋正教・堤英俊・中條尚子・半澤睦子・増本佐千子・松井翔惟・松田泰幸・宮田直子・向井健
6	ジェンダー平等な社会をつくる女性の学習分科会 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 下位低迷が続くジェンダー格差指数や、厳しい指摘が相次いだ女性差別撤廃委員会の総括所見に示される通り、日本のジェンダー平等の進展は遅い。ここでは、社会構造としてのジェンダー差別の変革に取り組む運動と実践に焦点を当てる。①公務非正規労働者問題で政府、自治体を動かしつつある会計年度任用職員の運動、②運動や地域のステークホルダーをも視野に入れた札幌市男女共同参画センターの実践、③ジェンダー平等プラン（2025年）の策定を支えてきた八雲町における社会教育の実践、ではどのような学習が積み上げられてきたのか。学習や実践、運動の現状と課題を、男女センターや公的社会教育など公的条件整備の意義と課題とともに考えたい。 世話人：片桐優子、祁晓航、菅野壽子、鈴木麻里、千葉悦子、中藤洋子、引地知子、平見美憂、廣森直子、吉田弥生
7	平和のための学習・文化活動 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 今年2025年は、戦後80年・被爆80年にあたると同時に、日清戦争130年、日露戦争120年にあたります。平和の問題を考えると、第2次世界大戦の悲惨な結末を出発点として平和を享受した80年だけでなく、侵略と戦争を繰り返した時代を見据えることが重要だと考えます。そこで、本年の平和分科会では、被爆者の運動、歴史認識に関わる被害と加害の記憶継承の活動、若い世代による平和のための学びと運動の取り組みなどを取り上げます。現地北海道からは、①被爆の記憶継承に取り組み「ノーモア・ヒバクシャ会館」を運営してきた北海道被爆者協議会の活動、②矢臼別における自衛隊基地反対闘争の憲法的意義についての報告を受ける予定です。全国からの実践報告も含め、今、私たちに求められている「平和をつくりだす」ための学習と運動のありかたについて検討したいと思っています。 世話人：阿知良洋平、姉崎洋一、伊藤宏、田島治、谷岡重則
8	多文化共生・人権尊重をめざす学習 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 多文化共生において前提となる大切な点は、自分自身を表現する言葉や文化を獲得することです。それは、学ぶ権利として人権の重要な側面であり、人間が人とつながり生活する上でも不可欠です。討議の柱の一つは「多文化共生をめざす支援と学びあい」です。地域で働き暮らす外国ルーツの人びと、とりわけ技能実習生をめぐる労働、生活、日本語学習・文化環境などの状況分析と支援実践からみた課題に迫ります。第二の柱「人権としての学習権保障」では、夜間中学での取り組みに学びながら、アイヌ語なども含めた多言語・教育保障、奪われた学習機会の保障と支援の課題について考えます。以上をもとにして意見交換し多文化共生の展望と課題について考え合ひます。 世話人：生田周二、井上みのり、杉山晋平、仲江千鶴、藤田美佳、帆足哲哉、水野みどり

9	自治体改革と住民の学び 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 およそ以下3点を学びあう準備をしている。一つには、国はこれから地方自治体をどうしようとしているのかの確認である。昨年は、さらなるデジタル化、地縁型組織への強い期待からなる法改正の提起を含んだ第33次地制調答申を検証した。その後どのような展開があるのかを確認したい。二つには、北海道には、かつて社会教育職員を経験した方が教育長、首長に就任している自治体が存在している。教育行政、ひいては行政の長という立場からはいかなる景色が見え、どのように経営が行われているのかを、学びたい。三つには、進む行政改革の検証である。所沢、木更津など、かつてこの全国集会で実践の厚みが注目されてきた自治体にあっても、公民館の在り方の変質させていく改革が進められている。そうした今日の行革に対抗する市民の動きに学びながら、そこに私たちはどのように向き合えばよいのか、検討しあいたい。 世話人：姉崎洋一、石井山竜平、上野景三、川野佐一郎、牛来学、佐々木さつき、角田英昭、長澤成次、廣目千恵美 布施利之
10	農業と社会教育—農をめぐる学びと協同— 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分（予定） 対面+オンライン併用で開催 1975年に開設された農業分科会は、今回で50周年を迎える。本集会では、農業分科会の半世紀の歩みを振り返りつつ、例年どおり現地の実践から学ぶことを基本に参加者全員で議論したい。北海道農業は稲作・畑作・酪農など幅広く展開され、その広大な耕地面積は全国の4分の1を占めており、文字どおり日本の食卓を支えている。大規模で専門的な経営が北海道農業の主流であり日本の農業先進地といえるが、それゆえにグローバル経済の影響を強く受けており、「課題先進地」という側面もまたある。そうした課題に向き合う北海道の実践に学びながら、これからの食と農のあり方を検討したい。 世話人：大内諒子、佐野万里子、鈴木祥江、鈴木秀子、若原幸範
11	自治と共同を育む住民主体の学びを創る 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 北海道では、人口減少や農業等の産業の担い手不足など様々な地域課題を抱えつつ、NPO等の住民主体の活動が活発に展開され、「公民館の役割」を担っているとも言われている。本分科会では、地域で行われている様々な形の活動から、住民主体の学習がどのように育まれ実践されているのかを学び、これらの住民の主体的な学習や自治を支える公的社会教育の役割や課題について考えることを主眼としている。そこで今年は、北海道の現状を学び課題を共有し、北海道特有の住民主体の学びと地域づくりの実践を通して、これからの社会教育のあり方を考えたい。報告は、石狩市浜益地区でのNPO法人ezorockと住民の活動、原発に依存しない地域づくりの活動の2事例を予定している。 世話人：阿部正人、上野景三、太田光紀、小川則之、河野和枝、平井愛子、松田武雄、吉川徹、若杉鉄夫
12	公民館分科会「ゆたかな社会教育事業とは」 日時：8月24日（日）9時30分～16時 対面開催 九州集会では「ゆたかな公民館事業をどう展開するか」を現場職員の不断の努力とその実践から学び、関西集会では「ゆたかな公民館事業の可能性～利用者とともにつくる」を公民館利用者の報告に学び、東北福島集会では「暮らしを拓く公民館事業」を地域団体自らが暮らしの課題に即した公民館活動を起こし継続している実践を学びました。これら過去の学びを踏まえ、地域と公民館（市民センター等）とがつながり、学級講座にとどまらない実践への展開がいかになされているかを現地北海道からご報告いただきます。ゆたかな社会教育事業とは何かを共に学びましょう。ぜひ公民館分科会にご参加ください。 世話人：上田幸夫、佐々木孝嘉、澤田智佐恵、田中真由美、出口寿久、細山俊男、松浪京子、松本大
13	住民の暮らしと地域を支え、チャレンジする図書館 ～北の国からの実践に学ぶ～ 日時：8月24日（日）9時30分～16時 対面開催 歯止めのかからない少子高齢化と人口減少。過疎化が進む地方都市ではとりわけ厳しい現実があり、社会教育施設の運営にも多大な影響が出ています。北海道では、2045年の人口が20%減と推計される中、将来のまちの存続を見据えながら、多くの意欲的な取り組みが各地の図書館で進められています。建物の外へ飛び出し、商店や福祉施設と連携し、子どもたちの多様なチャレンジの場を設け、住民参加で本のコミュニティを創出するなど。様々な制約を乗り越え、暮らしに役立つ情報を提供し、人々が集う大切な居場所にもなっている北海道の図書館。その実践に学び、社会教育施設としての図書館が目指すべき道を、ともに考えてみませんか。 世話人：石原照盛、岩本陽児、岡本正子、鈴木章生、鈴木浩一、巽照子、坪内一、中沢孝之、西河内靖泰、船橋佳子、前崎徳生、山口洋、山田洋通

14	北海道の地域と歩む博物館実践：その再構築における役割とは 日時：8月30日（土）10時～16時（予定） オンライン開催（先着50名程度） ※他の分科会参加者も日程が異なるので申込可能です 北海道では人口減少と地域経済の衰退により、自治体の存続も困難な状況がある。その結果、地域の歴史・自然・文化・芸術に触れ、語り合い理解を深め合う博物館の統廃合や資料の散逸が懸念される。そうなれば、地域社会のつながりが断たれるばかりか、地域に生きる私たちが現在を問う上で不可欠な過去からの知見を得る手がかりさえ見失ってしまうだろう。社会教育施設である博物館の役割を再認識し、先人から受け継いできたものの意義と未来へつなぐ具体的な方策を探索し、実践に移すことが求められる。分科会では、参加者一人ひとりの問題意識を共有し、浦幌、恵庭、小樽、幌加内の実践事例から博物館に向けた役割を考察する。それにより、未来の地域社会を見据えた新たなつながりを育み合う地域博物館活動を推進するための礎としたい。 世話人：大林千春、鬼本佳代子、栗山究、曾我友良、垂石寛史、中島宏一、浪指拓央、林浩二、松本朱実
15	社会教育職員がつながる分科会 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 「社会教育人材」をめぐる現在、政策的議論の場で、「地域コミュニティの基盤強化」にその役割への期待が寄せられている。量的拡大が進む「社会教育士」の称号者は、公民館等の社会教育施設、首長部局、NPO、指定管理者等多方面で“活躍”が期待されるが、ここで改めて教育委員会事務局に配置される「社会教育主事」の役割を問い直していく必要がある。学びの自由と権利を守り、学びの主体を支え、住民と地域社会のウェルビーイングを向上していく上で、社会教育職員の専門性とは何か、その力量はいかに形成していくか。地域性と個々人の体験（属人性）に着目しながら迫っていききたい。 世話人：會澤直也、菊池剛史、越村康英、斉藤烈、桜井朋子、高井正、中川知子、播磨正弥、皆川雄祐、森村圭介、渡邊海音
16	地域文化の創造と社会教育 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面+オンライン併用で開催 地域文化をテーマにした本分科会では、近年の報告、および『月刊社会教育』の連載「暮らしと表現空間」を中心に、昨年『地域文化の再創造—暮らしのなかの表現空間』（水曜社）を刊行しました。このテーマに関心のある方々、そして著者も交えた対面・オンラインのハイブリッドでの交流をまずは計画しています。また、アイヌや開拓、地域での演劇など豊かな蓄積のある北海道の活動もとりあげる予定です。少子高齢化の中での地域のつながりを文化でどうつくるか、古くからの文化の継承と新しい文化の創造、国際化とデジタル社会のなかでの文化のかたち、それらを社会教育としてどう支えるかなど、参加者の関心に応じて討議ができればと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。 世話人：草野滋之、四宮嵩世、新藤浩伸、杉浦ちなみ、田所祐史、森田はるみ、山崎功、吉田弥生
17	地域と学校 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面開催 この分科会では、学校統廃合をめぐる政策動向もふまえながら、権利としての学びを地域と学校の連携によって実現させていこうとする取り組みから学びあいます。その際には2つのレポート、(1) 飛び地合併した旧村地区の極小規模校を核に、過疎地域の活性化に取り組む（北海道伊達市大滝区のレポート）、(2) 子どもたちが地域の町内会館等に泊まりながら学校へ通う通学合宿で、関わる大人たちが育つ（北海道恵庭市のレポート）を中心に話しあいます。そして、分科会参加者間で各地の事例を紹介しあいながら、小規模校の可能性と課題、地域と学校が連携していくことの現代的な意味について、自由闊達に学びあいます。 世話人：阿部隆之、荒井文昭、只野浩太、得能敏宏、廣田健、山沢智樹
18	北海道で自然体験や環境活動から共に生きることを学ぶ 日時：8月24日（日）9時30分～16時30分 対面開催 人と人、人と自然の共生を自然体験や環境活動のなかから考えてみたい。9時30分に8号館1階に集合し、一斉にバスでフィールドワークへ。午前中のうちに8号館に戻り、昼食後に午後の報告を聞く（悪天候時はすべて8号館）。見学先は公共交通のない市内。市民団体が整備や体験活動を担い、地域に開放され、また自然保育の場でもあるフィールド。水道がないため、各自で水分等を持参のこと。受入れ人数に上限があり、早めに連絡先明記の上お申し込みを（お弁当は他分科会と同様）。集会参加費以外の費用は不要。「環境と社会教育研究会」のFacebook ページでも情報を伝えていく。→ https://www.facebook.com/kankyotosyakai/ 世話人：岩松真紀、岡健吾、勝又みさ都、高橋健、田中住幸、降旗信一、古里貴士

集会関連SNSのご案内(QRコードを読み取ってください)

社全協
Facebook



現地実行委員会
Facebook



現地実行委員会
Instagram



【特別分科会「日韓交流」】 対面+オンライン併用で開催

日時：8月25日(月) 9時30分～14時30分

会場：かでの2・7 (北海道立道民活動センター 札幌市中央区北2条西7丁目)

※8月24日(日)夜に「日韓交流」懇親会(恵庭市内を予定)もあります。

懇親会は事前申込制です。ふるってご参加ください。

全体テーマ：「地域(マウル)教育共同体を支える社会教育・平生教育」

セッション1. 9時30分～11時30分

社会課題(学歴社会)と向き合う新たな教育創造の可能性

1. 日本側報告：「新しい小学校づくりと地域づくり」「NPO法人まおい学びのさと」の
実践

健名美恵子・仲野いずみ(NPO法人まおい学びのさと)

2. 韓国側報告：「持続可能な生態転換と臥龍の学び舎の物語」

金鍾洙/キムジョンス(社会的協同組合マウル教育共同体 臥龍学習場理事)

コメント：両国の報告を受けて 石井山竜平(東北大学)

セッション2. 12時30分～14時30分

地域(マウル)を支える人、問われる力量・専門性に注目して

1. 韓国側報告：「地域を変える学びデザイナー平生教育士」

金知援/キム・ジウォン(忠北人材生涯教育振興院生涯教育チーム長)

2. 日本側報告：「地域医療・福祉と社会教育-既存の専門性を越え、地域にかかわる」

中安恭平(北海道社会教育士会会員)

コメント：両国の報告を受けて 崔一先/チェ・イルソン(慶熙大学校教授)

全体討論 「(仮) 地域(マウル)教育共同体を支える社会教育・平生教育(士)の可能性」

▶「日韓交流」懇親会 8月24日(日) 18時30分～(会費制、恵庭市内を予定)

事前申し込み必要。会費 5,500 円程度(当日会場で支払い)。定員 50 名、定員になり次第締めきります。申込者には詳細を改めてご案内します。

※上記特別分科会に参加できない方は、懇親会のみ参加も可能です。

かでの2・7(北海道立道民活動センター)

住所：札幌市中央区北2条西7丁目

道民活動センタービル

主なアクセス

JR 札幌駅南口：徒歩 13 分

札幌市営地下鉄

さっぽろ駅(10番出口)：徒歩 9 分

大通駅(2番出口)：徒歩 11 分

西11丁目駅(4番出口)：徒歩 11 分



会場（北海道文教大学）へのアクセス

〒061-1449

北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1

- ・JR恵庭駅「東口」から直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着



1. 新千歳空港から【JR新千歳空港駅⇒JR南千歳駅⇒JR千歳駅⇒JR恵庭駅】

- ・JR新千歳空港駅よりJR千歳線「快速エアポート」乗車。3駅目の「JR恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着

- ・JR恵庭駅まで快速「エアポート」で13分（快速エアポートは12分おきに運行）

2. 札幌駅・札幌市中心部から

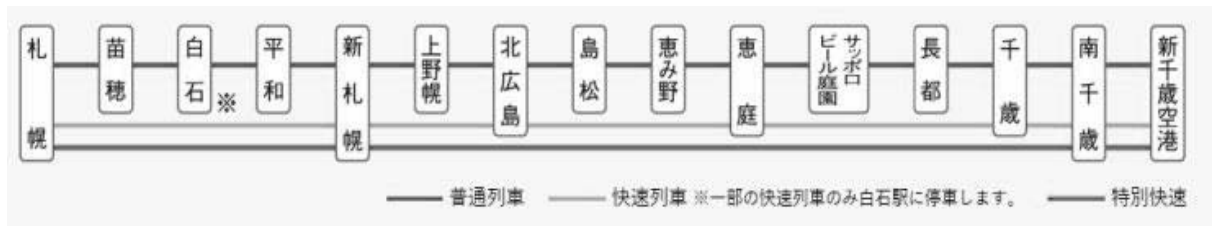
● JR利用の場合

札幌駅から

「JR千歳線」乗車。3駅目の「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で24分（快速エアポートは12分おきに運行しています）

新札幌駅から

「JR千歳線」乗車。2駅目の「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で15分（快速エアポートは12分おきに運行しています）



● 地下鉄利用の場合

南北線から：札幌市営地下鉄 南北線 さっぽろ駅下車、JR札幌駅より「JR千歳線」乗車。「恵庭駅」下車、東口より徒歩8分

東西線から：札幌市営地下鉄 東西線 新さっぽろ駅下車、JR新札幌駅より「JR千歳線」乗車。「恵庭駅」下車、東口より徒歩8分

お問い合わせ

社会教育推進全国協議会事務局（毎週水曜日 13時00分～16時00分）

〒162-0818 東京都新宿区築地町19番地 小野ビル2階 電話・FAX 03-3235-4143

E-mail: japse@nifty.com ホームページ: <https://japse.sakura.ne.jp/>

集会の詳細および最新の情報は集会ホームページ・社全協フェイスブックをご覧ください。

（現地実行委員会 Facebook・Instagramには集会ホームページからつながります）

<https://sha-eniwataikai.studio.site/>

<https://www.facebook.com/japse.main/>